

医療情報をもっと知りたいとき





はじめに

このパンフレットは、静岡がんセンターよろず相談が実施した学習会「学びの広場」の講演内容をもとに作成しました。医療情報を得るときの参考にしてください。

もくじ

がんの医療情報とは	1
「情報」について考えてみる	2
情報の入手方法	4
● 担当医や看護師などの医療関係者から得る情報	5
● 本・新聞・雑誌などから得る情報	11
● 同病者から得る情報	13
● インターネットから得る情報	15
参考になるサイト情報	17



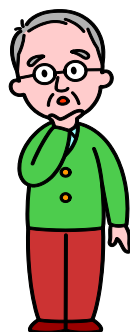
がんの医療情報とは

自分のがんは、
どういう病気？

治療の副作用や
障害には、
どう対応したら
いいのだろう？

生活上の工夫は
何かないかな？

どんな治療法が
あるのだろう？



同じ体験をした人
の体験や思いを
聞きたい。

欲しい情報の中には、いろいろなものがあります。



一般的な意味での医療情報



病気や治療といった医療情報には直接関係ないが、
病気になったことで欲しい情報

「情報」について考えてみる

今は、いろいろな情報があふれ、簡単に入手できるようになったと同時に、自分に合う情報、自分の欲しい情報を見つけるのは大変です。

ここでは、いろいろな角度から「情報」について考える、ヒントや注意点を紹介します。

● 情報の新しさ

医療の進歩の中で、情報は常に新しいものが出てきています。

治療に関する情報、医療に関わる制度などは、新しい情報かどうかよく確認してみましょう。

同時に、治療に関する情報については、新しい情報であっても、まだ試験段階のものや科学的に証明されていないものもありますので、どういう段階でだれ(どこ)から発信されている情報なのか注意する必要があります。

● 情報の正確性

受けとる側が慎重に情報を吟味する必要があります。

情報が正確かどうかを最終的に判断するのは、自分自身です。

特に、治療に関してはさまざまな情報があふれ、まちがった情報や誇大広告的なものもあります。また、主観的な情報は、その人自身の体験に基づいたものであることを理解して対応する必要があります。

● 情報の伝達

一般の方の理解と医療専門職の知識と理解のずれの問題があります。医師がインフォームドコンセントで丁寧に説明したつもりでも、難しい医学用語が入っていて、意味がわからなかったり、取り違えたりすることもあります。

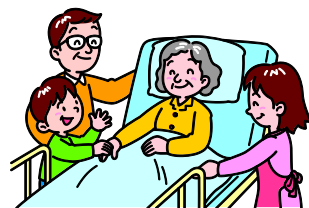
つまり、正しい情報を伝えたつもりでも受け取り方によって誤解が生じることもあるのです。

● 客観的情報と主観的情報

情報には、客観的なものと主観的なもの(がん体験者とそのご家族の体験談や思い)があります。混同しないように気をつけましょう。

医療情報を知ることで…

- 患者さんが自分で意思決定する助けになります
- 不安を解消、あるいは軽くすることができます
- 治療への意欲を高め、
治療に積極的に参加するのをサポートします



情報の入手方法

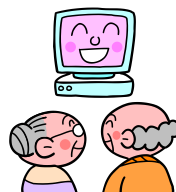
情報の入手方法



担当医や看護師などの
医療関係者



本



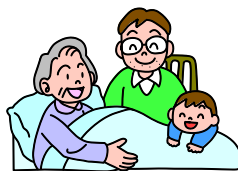
テレビや新聞、雑誌などの
マスメディア



インターネット



同病者



家族や友人、知人

情報の入手方法は、いろいろあります。
けれども、いざ「〇〇について知りたい」、「〇〇をどうしたらよいだらう」と
悩んだ時、どこから、どういうふうに関係情報を入手すれば良いのか、その情報は
正しいのか、新しいものなのか、悩んでしまうことが多いと思います。

情報を入手する時、どういうことに気をつけたらよいのでしょうか？
どういう方法での入手が可能なのでしょうか？

担当医や看護師などの医療関係者から得る情報

担当の医師や看護師に聞こうと思っても、「こんなことを聞いてよいのかな」とか、「忙しそうで悪い」という遠慮が先になってしまったり、診察時間が短かったりして、タイミングをつかめないことがあります。

けれども、わからないことをわからないままにしておくのは、自分自身にとっても良いことではありません。

また、担当の医師は、その患者さん特有の情報、あるいは、これまでの病気や治療の細かな経過などを一番知っている存在です。看護師も同じように、患者さんに関わることを通して、その方に合ったケアの情報をもっています。

つまり、**直接関わっている医療者は、本やインターネットでは得られない、その患者さんにあった情報を提供してくれる存在**です。

患者さんに関わっている医療関係者は、
患者さん独自の情報を知っています



「こんなことを聞いてよいのかな」と遠慮することはありません。医師の説明には、なじみのない、わかりにくい医学的な専門用語がでてくることがあります。

また、一度に多くの説明を聞き、理解できないこともあります。ですから、わからないことはそのままにせず、聞いてみましょう。

外来診療では、診察時間が限られ、短い時間の中で聞きたいことも十分に聞けないこともあるでしょう。

そういう場合は、あらかじめ聞きたいことを箇条書きでメモにまとめておき、要領よく質問する工夫をしましょう。

また、**医師からの情報をメモしたり、家族と一緒に説明を聞いてもらったり**しましょう。そうすることで、あとで、もう一度頭の中を整理して話の内容を確かめあうこともできます。

わからなかったことは、後日改めて確認してみましょう。



メモを活用する

- ① 伝えたいことをまとめておく
- ② 聞いたことを書き残す

● 情報の伝達



一般の方の理解と医療専門職の知識と理解のずれの問題があります。

医師がていねいに説明したつもりでも、難しい医学用語が入っていて、意味がわからなかったり、取り違えたりすることがあります。

つまり、正しい情報を伝えたつもりでも受け取り方によって意味を取り違えたり、誤解が生じたりすることもあるのです。

〇〇細胞の〇〇がんで、第△期なので、××術という手術の術式で……。



治療の情報

治療に関して情報を検討する時には、その治療のメリット（良い点）だけでなく、デメリット（悪い点）も含めて考える必要があります。

● メリット（良い点）

その人自身、あるいは病気にとってプラスな点

● デメリット（悪い点）

副作用や危険性、日常生活、社会生活への影響、機能障害などの可能性など、その人自身にとってマイナスな点

また、治療はどんながんの、どんな時期でも効果があるわけではありません。メリットが大きな治療でも、その人には適さない場合もあります。

医師は、がんの進み具合や臓器の状態、からだ全体の状況などを考慮した上で、可能な治療方法を説明します。

“自分自身にとって”大切にしていること、大切にしている思いを考え、いろいろな側面から治療方法を検討し、自分自身で決めることが大切です。

- ◆ メリット（良い点）とデメリット（悪い点）をしっかりと理解する。
- ◆ いろいろな角度から考えてみる。
- ◆ 最終決定は、自分自身です。



セカンドオピニオンで情報を得るとき

セカンドオピニオンとは、直訳すると「第2の意見」という意味です。つまり、病状や治療法について、担当医以外の医師の意見を聞き、参考にすることです。

どういう時に利用するのか

- 担当医に診断や治療方針を説明されたが、どうしたらよいか悩んでいる時
- いくつかの治療方針を提示されて、迷っている時
- 他に治療法がないか、と考えている時

どうすればいいの？

必要な書類や予約の有無は、病院によって異なりますが、基本的には、**紹介状(診療情報提供書)**や**検査の資料**(病理組織レポート、CTなどのレントゲンファイル)などが必要になることが多いようです。

患者さんの病気の状況(今までの治療や現在の病状)によって治療も異なることが考えられ、患者さんの病状に合った意見を求めるためには、客観的な医療情報が必要になります。

他の意見も聞いて、確認したい

担当医と相談し、**セカンドオピニオンを受ける病院**を決める

- ★ 手続き方法を確認する
- ★ 必要な書類を確認する

担当医に必要な書類を用意してもらう

- ★ 紹介状(診断情報提供書)
- ★ 病理標本
- ★ 検査結果資料 など

セカンドオピニオンを受ける病院へ

セカンドオピニオンを受ける効果とは？

- 現在の担当医の診断や方針に対する確認ができます。
- 診断や治療の妥当性（適切性）を再度確認することで、納得して治療を受けることができます。
- 現在の担当医の提示する治療法以外の治療法を知ることもあります。

● 注意すべき点



セカンドオピニオンを受ける際には

- **担当医に申し出ること**
- **セカンドオピニオンは、病院を移るのではなく、他の医師の意見を聞くことである**

の2点をよく理解することが大切です。

セカンドオピニオンを受けることは、決して担当医との信頼関係を壊すことではありません。

どこでどういう治療を受けるにしても、患者さん自身が、その治療法を十分理解、納得して受けることが大切です。

時々、言い出しにくいから内緒で、という方がいらっしゃいますが、内緒にすることこそ、信頼関係を損ねるものです。また、内緒にすることで、患者さんの病気や治療情報、検査資料等がないままセカンドオピニオンを受けることになってしまいます。

これは、セカンドオピニオンを受ける効果を低下させてしまうことにもなるのです。



相談支援センターに相談するとき

全国のがん診療連携拠点病院には、「相談支援センター」が設置されています。

相談支援センターは、患者さんやご家族をはじめ、地域の方などいろいろな方にご利用いただけます。

がんのこと、治療や今後の療養生活の心配、医療費などお気軽にご相談下さい。

た と え ば …

がんの医療情報は量が多く、自分に合うものが見つけれない場合、相談支援センターでは、相談者に合う情報を提供します。

たとえば、本を紹介したり、必要な小冊子を提供したりします。

また、パソコンをお持ちでない方に代わり、インターネットでの情報を探し印刷してお渡しすることもできます。

何より、相談しながら自分に合う情報へ導いてくれるという利点があります。

相談支援センターは、医療機関によっては、「医療相談室」や「よろず相談」などの名称でよばれていることもあります。

相談支援センターでは、電話や対面での相談ができます。



本・新聞・雑誌などから得る情報

本や新聞、雑誌などから得る情報は、視覚的にもわかりやすく、自分の必要な情報を比較的探しやすいと思います。

中でも、図書館には多くの資料がありますので、活用してみましょう。

図書館で情報を探すとき

- 公共図書館を利用する
- 専門図書館を利用する
- 患者図書館を利用する



公共図書館を利用する

最近では、一般の方々の健康や医療への関心が高まり、わかりやすく書かれた、一般の方向けの医療関連図書がずいぶんと発行されるようになりました。

医療・健康関連の雑誌もいろいろ出ています。

公共図書館でも、このような医療関連の本を置くところが増えていきます。気軽に立ち寄れる公共図書館を活用してみましょう。

専門図書館を利用する

大学の医学図書館などの専門図書館でも、一般の方も申し込めば資料の閲覧やコピーをとることができる施設が出てきました。

なお、国立大学の図書館は、一般市民が制限なく利用できるようになっています。

「医学図書館の一般公開」に関する情報は

<http://www.ne.jp/asahi/citizen/information/> でご覧下さい。

患者図書館を利用する

医療機関に「患者図書館（あるいは図書室）」を設置しているところが少しずつですが増えてきました。

たとえば、静岡がんセンターの患者図書館「あすなる図書館」では、インターネットで所蔵資料の検索ができますので、本を購入したり探したりする際に参考になります。

いいなステーション

<http://www.e7station.com>

『全国の患者情報室一覧』をみることができます。

● 情報の新しさ

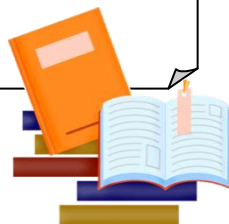


医療の進歩の中で、情報は常に新しいものが出てきています。

特に治療に関する情報、医療に関わる制度などは、新しい情報かどうかよく確認しましょう。

同時に、新しい情報であっても、まだ試験段階のものや科学的に証明されていないものもありますので、注意が必要です。

数多くある書籍の中には、古いものもありますので、気をつけて探すようにしましょう。



同病者から得る情報

体験者から得る情報は、同じような経験に基づいた悩みを共有することができたり、生活上での工夫点を教えてもらったり、今後の経過を知ったりする上で、とても参考になり、心強いものでしょう。

ただし、一人ひとりの治療や症状、効果は異なり、同じ病気の人の内容であっても必ずしも自分に当てはまるとは限りません。

主観的な情報 (体験談や闘病記など、経験に基づいた情報)

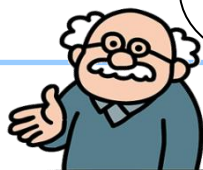


よいところ

- 🌸 同じような体験をしているからこそわかる細やかな情報
- 🌸 医療情報を交換し、治療体験を共有する中で、同じ境遇の相手と思いを分かちあう

気をつけるところ

- 🌸 同じ病気でも、人によって症状も治療の効果も異なる
- 🌸 古い医療情報や間違った医療情報もある



参考に
しましょう

患者会の情報を探るとき

- 患者会のホームページを検索する
- 患者会の相談窓口を利用する

いいなステーション

<http://www.e7station.com>

患者会に関する情報や全国の患者会リストなどをみることができます。

インターネットから得る情報

インターネットを利用すると、多くの情報をその場で簡単に入手できます。ただし、情報量がとても多いため、その情報が正しいのか、新しいのかなど判断が難しい面もあります。

そのため、自分の欲しい情報を慎重に選択する必要があります。

● 注意すべき点



情報を探す時に、注意しなければいけないのは

- 情報発信者が明確になっているか
- 一方的に偏った情報ではないか
(よいことばかりが書いてある)

の2点です。

特に、インターネットから情報を得ることに慣れていない場合や医療に関してほとんど知識がない場合は、まず、**公的機関が発信する情報**を中心に探しましょう。

インターネットで情報を探るとき

- 検索サイトを利用する
- リンクを利用する
- 医療機関のホームページを利用する



検索サイトを利用する

通常、何かを調べたい時は、検索サイトを使うことが多いと思います。けれども、検索サイトを利用して探す時は、キーワードを考える必要がありますし、膨大な検索結果が出ることもあります。信頼性に欠けるものや古い情報もたくさんあります。

検索結果が多い場合は、さらに絞り込んで探し、同時に信頼できるのか、新しいかなど判断することが大切です。

リンクを利用する

公的機関など信頼できる情報源から情報を得るとともに、そこで紹介されているリンク集などを利用して、別のホームページもみてみるという方法があります。リンクは、通常、関連したホームページをそこから利用できるようになっています。

このようにして、リンクからまた別のリンクへと移りながら、いろいろな情報を得られるのも、インターネットの特徴です。

医療機関のホームページを利用する

医療機関でもホームページを開設しているところが増え、ホームページ上でさまざまな情報を提供しています。

病院の方針(理念)、診療科の案内、設備以外に、各診療科の詳細な情報や治療実績なども確認できるところもあります。

参考になるサイト情報

(平成19年9月)

インターネットは、いろいろながんの情報を得ることができます。次のことに気をつけながら利用しましょう。

- ★ 情報の新しさ
- ★ 情報の正確性
- ★ 情報の客観性と主観性

同じ病名の患者さんでも病気の状況や治療方法、検査などは、一人ひとり異なりますのでご注意ください。

注) ここに掲載しているホームページは、参考例として紹介したもので、静岡がんセンターが推奨しているということではありません。

1

がんの疾患や検査、治療などの情報

国立がんセンター がん対策情報センター「がん情報サービス」

<http://ganjoho.ncc.go.jp/>

がんについてのさまざまな情報が充実しています。
「一般の方へ」の『各種がんの解説』では、部位別にがんの症状、検査、診断、治療などの情報があります。
また、『予防と検診』や『診断・治療方法』、『がんとつき合う』（生活面での情報）など、幅広く情報が掲載されています。
その他にも、『病院を探す』では、全国の「がん診療連携拠点病院」や「相談支援センター」、「緩和ケア病棟のある病院」などの一覧があります。それぞれの施設の概要やホームページのリンクも貼ってあるので、とても便利です。

がん情報サイト Cancer Information Japan

<http://cancerinfo.tri-kobe.org/>

アメリカ国立がん研究所の「がん情報サービス」の翻訳。
一般向け、医療者向けがあり、病気や治療の情報、症状・副作用・後遺症の情報など充実しています。
また、抗がん剤などの薬剤情報や臨床試験情報も提供しています。

財団法人 がん研究振興財団

<http://www.fpcr.or.jp/>

刊行物一覧のところで、各種がんやがん予防関連などの冊子を PDF でダウンロードすることができます。

がんの疾患や検査、治療などの情報

1

厚生労働省

<http://www.mhlw.go.jp/>

厚生労働省のホームページに、先進医療の情報が掲載されています。トップページの『医療保険』をクリックし、『トピックス』の中から、先進医療の概要と実施している医療機関リストをみることができます。

独立行政法人 国立健康・栄養研究所 「健康食品」の安全性・有効性情報

<http://hfnet.nih.go.jp/>

独立行政法人国立健康・栄養研究所内の「健康食品情報プロジェクト」によって運営されているサイトです。
健康食品名を入力して効果や副作用、科学的検証の状況などを確認することができます。
また、行政機関が発行した健康食品関連のパンフレットをPDFでダウンロードすることができます。

医薬品情報データベース

<http://database.japic.or.jp/>

財団法人日本医薬情報センターが提供する国内外の医薬品情報に関するデータベースシステムです。
データベース内容は、医薬文献、学会演題情報、添付文書情報、臨床試験情報などです。

1

がんの疾患や検査、治療などの情報

静岡県立静岡がんセンター 「Web 版がんよろず相談 Q&A」

<http://www.scchr.jp/>

静岡がんセンターホームページのトップ画面の左側『よろず相談』の中に『Web 版がんよろず相談 Q&A』があります。

ここでは、全国がん体験者の悩み実態調査の結果を整理した体験者の悩みを閲覧できます。一部の悩みについては専門家による助言がつけられています。また、作成した冊子類を PDF でダウンロードできたり、静岡がんセンターの患者図書館にある資料を検索できたりします。

また、『県民向け情報』では、静岡県内の各市町で実施している相談窓口、行政サービス、支援制度をまとめた一覧をみることもできます。

緩和ケアに関する情報

2

日本ホスピス緩和ケア協会

<http://www.hpcj.org/>

『一般向けトップページ』の中の『一般の方への情報提供のページ』には『ホスピス緩和ケアとは』、『緩和ケアを希望される方へ』（ホスピスケア・緩和ケアを受けるためにはどうしたらよいか）、『緩和ケアを受けられる医療機関』（リスト）などをみることができます。

また、緩和ケアを受けられる医療機関のところには、下記『末期がんの方への在宅ケアデータベース』へのリンクも貼られています。

末期がんの方の在宅ケアデータベース

<http://www.homehospice.jp/db/db.php>

自宅での療養を希望されている患者さんやそのご家族が、在宅療養中に受けられる医療サービス、往診医情報、医療機関リストなどを各都道府県別に検索できます。

施設ごとの概要、患者さんの受け入れ要件、ケアの具体的内容、在宅ケアの方針、医療費についてなど細かく参照できます。

独立行政法人 福祉医療機構「WAM NET (ワムネット)」

<http://www.wam.go.jp/>

独立行政法人福祉医療機構が運営している福祉・保健・医療の総合サイトです。介護保険事業者リスト、病院・診療所情報、在宅療養支援診療所、高齢者福祉施設情報、児童福祉施設リストなどが掲載されています。

②

緩和ケアに関する情報

痛みの緩和について考える JPAP (Japan Partners Against Pain)

<http://www.jpap.jp/gen/>

がんによる痛みについての解説や痛みをやわらげる(緩和する)ために使う薬などの情報が載っています。

また、WHO(世界保健機関)式がん性疼痛緩和治療法についての解説やがん性疼痛治療を行っている全国施設リストも掲載されています。

『患者さん・ご家族のひろば』では、「痛みのチェックシート」のダウンロードや「痛みに関するよくある質問」、「痛みの相談室」などがあります。

国立がんセンター がん対策情報センター「がん情報サービス」

<http://ganjoho.ncc.go.jp/>

国立がんセンターがん対策情報センター『がん情報サービス』に『病院を探す』があります。その中で、『緩和ケア病棟のある病院一覧』を紹介しています。

一覧表の中で閲覧したい病院名をクリックすると、緩和ケア病棟の設備、差額ベッド代、訪問ケアの有無、電話相談の有無、夜間対応の有無等の情報をみることができ、便利です。

四国がんセンター

<http://www.shikoku-cc.go.jp>

リンパ浮腫の説明や注意点が載っています。
 トップページ『患者さま・ご家族の方へ』のボタンから、情報のリストのページが出てくるので、その中の『クリニカルパス』の『リンパ浮腫』をクリックします。「予防と治療」、「手入れの仕方」に分けて閲覧できます。

社団法人 日本オストミー協会

<http://www.joa-net.org/>

ストーマケアの基礎知識、ストーマ外来一覧、オストメイト対応トイレ設置場所一覧、オストミー協会の支部一覧、オストメイトの生活ニーズなどの情報が掲載されています。

日本コンチネンス協会

<http://www.jcas.or.jp/>

失禁の基礎知識、排泄に関する相談窓口、セルフケアのポイント、排泄用具の分類、選び方、使い方のポイントなどが掲載されています。

4

就労・経済面

社会保険庁

<http://www.sia.go.jp/>

社会保険制度の説明、年金 Q&A、相談コーナー(全国の相談窓口)、各種申請手続きなど。PDF でダウンロードできるパンフレットもあります。

ハローワークインターネットサービス

<http://www.hellowork.go.jp/>

ハローワークの所在地情報や求人情報をみることができます。また、各種手続き、教育訓練などの情報なども掲載されています。

しごと情報ネット

<http://www.job-net.jp/>

ハローワークインターネットサービスのホームページからもみることができます。民間の職業紹介会社・求人情報提供会社、ハローワークなどに登録されている求人情報等のインデックス情報を検索できます。

医療費と制度

<http://www.enjoy.ne.jp/~h.simizu/>

病院に勤めている診療情報管理士の方が作成しているホームページです。いろいろな医療制度、健康保険、医療費控除、傷病手当、身体障害者手帳などの Q&A があります。

こころのケア、相談窓口、患者さん向け情報等

日本対がん協会

<http://www.jcancer.jp/>

がんの予防や最新のがんに関するニュースや情報を見ることができます。電話や対面での無料相談も行っています。
相談は、医療関係の面接・電話相談と、『がんホットライン』という生活関連の相談ができます。

がんナビ

<http://blog.nikkeibp.co.jp/cancernavi/>

日経メディカルのがん関連サイトです。
がんの病気や治療に関する新着情報、講演会などのお知らせ、がんを生きるガイド Q&A、がんに関するリンクも充実しています。
患者会やネットコミュニティのリスト(リンク)などもあります。

NHK「がんサポートキャンペーン」

<http://www.nhk.or.jp/heart-net/support/>

このホームページでは、さまざまながんに関する悩みの意見交換をする「がんサポート伝言板」やがんの用語解説、放送した悩みの Q&A、患者さんの体験談やエッセイなどを読むことができます。
「がんサポート伝言板」では、項目分けしてあるので、ご自分が悩んでいることに近い項目をみると、患者さんやご家族、医療関係者などさまざまな立場の方の意見や思いを読むことができますし、ご自分で書き込むこともできます。

5

こころのケア、相談窓口、患者さん向け情報等

全国の医療安全相談支援センター

<http://www.anzen-shien.jp/>

財団法人日本医療機能評価機構関連サイトです。
トップページの『全国の医療安全支援センター』から各地の医療安全支援センターの名称、受付曜日・時間、電話番号などを調べることができます。
医療安全支援センターの都道府県別のリストもあり、さまざまな医療に関する相談を行っている窓口を紹介しています。

治療の体験記を病名から探せる 闘病記ライブラリー

<http://toubyoki.info/>

本屋で本を探すように、闘病記を探せます(がんも部位ごとにわかれています)。それぞれ本をクリックすると、著者や出版社情報、目次などもみることができます。

パラメディカ

<http://homepage3.nifty.com/paramedica/>

医療・闘病記などの古本をインターネット販売している古本店で、リンクも充実しています。自分と同じ〇〇がんの方の闘病記を読みたいというときには、参考になります。

こころのケア、相談窓口、患者さん向け情報等

いいなステーション

<http://www.e7station.com/>

ここは「患者さんのあったらいいなを実現する」をコンセプトにさまざまな活動を行っています。全国の患者会（がん以外も含まれています）リスト、全国の患者情報室リストが閲覧できます。

日本弁護士会連合会

<http://www.nichibenren.or.jp/>

法律相談センターリストがあります。

医療事故情報センター

<http://www3.ocn.ne.jp/~mmic/>

「医療事故について相談したいときには」の項目から、各地の医療問題弁護団・研究会などの相談窓口連絡先一覧をみることができます。

6

がんのメーリングリストなど

メーリングリストは、一度に大勢の人へ電子メールを送ったり、受けとったりできるしくみです。

情報交換やおしゃべりなどさまざまな目的で幅広く利用されています。

キャンサートークメーリングリスト

<http://www.incl.ne.jp/~muse/cancer/>

かなり大きながんのメーリングリストといえます。

がん研究者、医師、看護師、ソーシャルワーカーなどさまざまな医療従事者や患者さんやご家族などが自由に意見・情報を交換する場になっています。

メールマガジンなど

メールマガジン「メルマ」<http://www.melma.com/> (トップページ) では、あらゆるジャンルのメールマガジン (登録しておけば、定期的に送られてきます。無料です。) があるサイトなのですが、がんに関連したものは以下のものがあります。

- 癌めーる (m00000945) 週1回
- 海外がん情報 (m00115303) 週1回

どちらも、がんに関する、「厚生労働省の発表」や「マスメディアの情報」を知るのに便利です。

(情報には、リンクが貼ってあり、詳しいところはリンク先でみるができます)

医療情報をもっと知りたいとき

平成18年3月発行

平成19年3月発行

平成19年9月発行

発行：「がんの社会学」に関する合同研究班

主任研究者 山口 建（静岡県立静岡がんセンター総長）

編著：静岡がんセンター 疾病管理センター よろず相談

静岡がんセンター 研究所 患者・家族支援研究部

問い合わせ先：静岡がんセンター研究所 患者・家族支援研究部 石川 睦弓

〒411-8777

静岡県駿東郡長泉町下長窪1007

TEL 055-989-5222 FAX 055-989-6085

E-Mail kanjakazoku@scchr.jp

本冊子は、静岡がんセンター「よろず相談」部門が毎月実施している、がん患者さんご家族の学習会【学びの広場】の講演内容と資料をもとに、また平成16年に発行された「がん体験者の悩みや負担等に関する実態調査報告書概要版—がんと向き合った7,885人の声」を参考に、作成いたしました。なお、本冊子の作成は、下記の厚生科学研究費の補助によるものです。

「がんの社会学」に関する合同研究班

- ・厚生労働科学研究費補助金 効果的医療技術の確立推進臨床研究事業「短期（治療後5年以内）がん生存者を中心とした心のケア、医療相談等の在り方に関する研究」班（平成16年度より、がん臨床研究事業「がん患者の心のケア及び医療相談等の在り方に関する研究」班）（平成18年度終了）
- ・厚生労働科学研究費補助金 第3次対がん総合戦略研究事業「がん生存者（Cancer survivor）のQOL向上に有効な医療資源の構築研究」班（平成16年度より）
- ・厚生労働省がん研究助成金「がん生存者の社会的適応に関する研究」班（平成15年度終了）
- ・厚生労働省がん研究助成金「本邦におけるがん医療の適正化に関する研究」班（平成18年度終了）
- ・厚生労働科学研究費補助金 がん臨床研究事業「WEB版がんよろず相談システムの構築と活用に関する研究」班（平成19年度より）

